

S3-1 ロコモ / 地域包括ケアシステムにおける整形外科医の役割

◎二階堂 ^{にかいどう}元重、藤野 ^{もとしげ}圭司

医療法人 二階堂医院（長野県）

【目的】

SLOC（全国ストップ・ザ・ロコモ協議会）では、今後ますます重要となる介護予防事業において自治体と連携し、安全かつ医学的根拠に基づいたロコモーショントレーニング（以下ロコトレ）を指導・実践する有資格者「ロコモコーディネーター」の養成を行っている。

【方法】

資格取得研修会は年3回開催。受講資格は医療介護系有資格者に限定し、研修会修了後、試験を実施。合格者には認定証を授与。資格の継続は5年間としている。

【結果】

現在有資格者は1,781名。おもな活動内容はロコトレ指導、ボランティア養成講座の実施、市民公開講座講師などである。

浜松市では2018年3月までに354通所型サービス施設の利用者8,268名に対し、1,527名のボランティア（ロコモ普及員）と、市内ロコモコーディネーター179名中71名がプログラムに参加している。

【考察】

地域包括ケアシステムの中で、我々整形外科医が果たしていくべき役割については、要支援要因の34%を占める運動器関連疾患（転倒骨折を含む）と、要支援予備群すなわち自治体の定める二次予防事業対象者への対策を分けて考える必要がある。

前者は運動器不安定症群として整形外科医が日常診療で十分対応可能であり、とりわけロコモと密接にリンクする骨粗鬆症については早期診断、早期治療の必要が求められている。

一方我々は後者のグループを「行政上のロコモ」と捉え、各自治体が運営する運動器機能向上プログラムに、エビデンスに基づいたロコトレを積極的に介入することで、要支援への移行をできるだけ阻止したいと考えている。

現在、全国4都市の自治体において有資格者介入の有無によるロコモ予防効果の違いに関する調査、検証事業を展開中である。

【結論】

SLOCは、自治体の進める地域包括ケアシステムの中で、特に二次予防事業対象者へのロコトレ介入により、国民全ての願いである健康寿命の延伸に寄与していきたいと考えている。

〔COI開示 なし〕